

中学生は書くことが 本当に嫌いか？

静岡県田方郡大仁町立大仁中学校教諭
梅原 一彦
うめはら かずひこ

書くことをどうとらえていくか

マスコミなどで言われる、「最近の中学生はテレビやコンピュータゲームなどの目や耳から入ってくる情報を取り入れ、取捨選択することは頻繁にするが、文字や文章で自分を表現することを嫌がる。すなわち苦手である。」という現象は本当なのだろうか。また、本当に文章表現が苦手なのだろうかということを授業を中心に考察したいと思う。また、「必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる」という学習指導要領の中学第一年の目標を考えたとき、自分なりに「書くこと」とは何か、課題は何かなどを追ってみた。

- ・頭と手が疲れる。
・字数の多いのはいやだ。
・書き直したりするのが大変。
・書く題材があまりない。
- 三 書いたりするのはどんな分野がおもしろいですか？（複数回答可）

- ア 生活文（十一名） イ 読書感想文（五名）
ウ 日記（十一名） エ 意見文・主張文（二名）
オ 詩（十一名） カ 短歌・俳句（九名） キ 授業
の中での自分の意見など（二名） 延べ五十一名が回答
- 四 書いたりするのはどんな分野がいやですか？（複数回答可）
- ア 生活文（十六名） イ 読書感想文（二十名）
ウ 日記（九名） エ 意見文・主張文（二十四名）
オ 詩（六名） カ 短歌・俳句（九名） キ 授業の
中での自分の意見など（十七名） 延べ百一名が回答
- 五 文章を書くとき言葉の意味がわからないときはどうしていますか？
- ア 辞書を引く（二十一名） イ 先生や友達にきく（十名）
ウ わからなくても気にならない（四名）
エ その他（家の人一名）

あるクラスの書くことについてのアンケートから（有効回答総数三十五）「学年内でもテストの平均点も比較的よく、授業での活動も活発なクラス」

一 国語で文章表現をしたり、作文を書いたりすることが好きですか？

- ア とても好き（なし） イ まあ好き（六名）
ウ ふつう（十一名） エ あまり好きではない（九名）
オ 嫌い（九名）
- 二 好き、嫌いの理由は？（主なもの）

好き

- ・自分の意見がはっきりしてくる。
- ・書き始めるまでは大変だが、書き出すとおもしろいし、考えが深まる。

- ・書いているうちに、自分の疑問や考えが発見できておもしろい。

- ・書いていると自分の世界が広がっておもしろいし、素直に自分の気持ちが表現できたときはうれい。

嫌い

- ・文字を書くのが好きだから。
- ・めんどくさい。
- ・漢字を使って書くのがいや。
- ・思ったことがうまく書けない。
- ・題材は自由などといわれると書けない。

六 今までに書いた文章の中で一番良かったのはどのくらいですか。（四百字詰め原稿用紙に換算）

- 三枚（二名） 四枚（一名） 五枚（三名）
六枚（十名） 七枚（七名） 八枚（七名）
九枚（一名） 十枚（二名） 十四枚（一名）
十七枚（一名）

《追加アンケート》（読書感想文が嫌いというのが多かったので、読書との関連で）

- 七 本を読むのは好きですか？
- ア とても好き（五名） イ まあ好き（八名）
ウ ふつう（十五名） エ あまり好きではない（二名）
オ 嫌い（五名）

八 最近、読んだ本の中で一番印象に残っているのはどんな本ですか？

- 上位のもの『ハリー・ポッター』、『指輪物語』、
『ハッピーバースデー』、『十二番目の天使』
その他 『トリビアの泉』、芥川龍之介の短編
『三毛猫ホームズシリーズ』

【考察】「一、二について」とても好き」がなく、「まあ好き」でも六名と非常に低い数値は予想はされたが、「好き」の理由を見ていくと、書くことで自分の考えがはっきりしたり、深まったりするというプラスの面が多

く出ている。逆に「嫌い」の十八名はめんどつくさい、書くことを考えるのが大変という意味合いの単純なものが多かった。

三、四 について 生活作文や日記などはどちらかといえば書きやすく、読書感想文や意見文・主張文は苦手としている生徒がとて多い傾向にある。(五、六省略)

七、八 について 読書の嫌いな生徒は意外に少なかつた。また、横断的に見てみると、書くことが嫌いとなつた生徒でも、本を読むことがとても好きとなつた生徒が四名もいた。「書くこと」と「読むこと」の融合にはまだかなりの工夫と努力が必要になりそうだ。また、かなりの生徒が『ハリー・ポッター』を読んでいるにもかかわらず、夏休みの課題では一人も書いてこないという結果からも、読書と読書感想文が結びつかないことがわかる。

教科書の教材から環境問題を考える

書くことの授業を進めていくと、うれしいことに、次のような表れを示すこともある。一年生の教科書の「魚を育てる森」、『めぐる輪』の中で生きる「二つの教材を学習した後、生徒たちは地球や自然環境に対して何ができるか、何をしなければならぬかを話し合い、発表し合った。そして、自分たちがこの星に生きていくた

生徒の文章

大昔、人は自然と共存できていたのに、二十一世紀の今までに、一方的にその関係を壊してきたのは人間だった。自然との共存を考えたとき、天然資源や物資の乏しい日本には未来はないのだから。わたしは必ずしもそう悲観的になることはないと思う。わたしたち日本人は節電、節水、リサイクル商品の開発と必死になって取り組み、消費者もリサイクルされた商品が多少価格が高くなっても、購入している。日本人の環境問題への意識の高さを表すものだろう。

わたしはこれからどう地球に接していけばいいのだろうか。まずむだを減らすこと、簡単なようだが、これができれば、地球の負担がだいぶ軽くなると思う。人は便利な生活だけを追い求めてきたけれど、生活用品も食料品も必要なものをしっかりと見定めて買う必要があると思う。

また、リサイクルも大切だ。「ゴミを燃やす燃料のことと資源を大切にすることを考えれば、一石二鳥である。大きな地球環境を前にしては無力と思える中学生だが、できることはたくさんある。わたしたちが地球に対して進んでプラスの方向に働きかけることで足並みをそろえられたら、絶大な力になれると思う。できることからやっていきたい。

【評】いろいろな機会に自分の環境に対する考えが、詳しく、説得力をもって述べられるようになりましたね。君の言ひとおり、中学生は決して無力ではありません。できることから実際に始めよう。

中学生は書くことが本当にきらいか？

「書く材料がない。」という問題については、イメージマップなどを使って、ある程度解決できる。自分で題材

めにはどんなことができるか、どんな心構えで生きていかなければならないかを文章に綴ってみた。自分たちの身近な環境問題を取り上げると、多くの生徒が真剣に自分の考えをまとめ、いつもより構成の面でもまとまった文章が書けた。

「わたしたちの地球へ」というタイトルで書いた文章の例

生徒の文章

わたしがまずできることといえば、紙をむだに使わないことです。この紙(原稿用紙)だって、木からできています。ノートだって、教科書だって皆同じことです。わたしたちは今、いろいろな場面で、紙をむだに使い、いらなくなったらゴミ箱へという行為を繰り返しています。地球にやさしくない行為を繰り返すということは、めぐりめぐって、わたしたち人間にも悪い影響を与えているのです。

それなのに、人間は木をどんどん切って、地球環境をだいなしにしています。地球とわたしたちは大なる糸でつながっているのだから、紙をむだに使わず、最大限再生紙を使い、わたしたちの地球の環境によい生活を心がけていきたいです。(こうして書いているときにも書き残した紙がむだになっているのは……)

【評】紙のむだ使いは学校でも問題になっており、プリントの裏面にも印刷するように心がけたりしています。中学生から町への働きかけで条例が設定されたところもあるそうですね。

に対するイメージを広げていくと、書きたいことが浮かび上がってくる。その中から取捨選択をしていくという方法を取ればよい。となると、自分の考えをまとめようとする段階でつまづいている生徒とその次の段階でそれを的確に書き表すことが苦手な生徒が存在するということになる。

『ハリー・ポッター』や『指輪物語』の全巻を読破した生徒は、心の中に大きな感動と物語に対する鮮烈なイメージをもってはいるはずである。原稿用紙何枚というような枠に当てはめるような表現ではなく、心にわき起こった感動を素直に表現させたい。そのため、生徒が自由に表現するための方法と支援が今後の大きな課題になるだろう。

書いて表現するといつことに多くの生徒が拒否反応を起しているようにも思えるが、その実は生徒たちが進んで表現してみようという段階まで、もう一歩というところに来ているような気がする。

「書くこと」はアンケートが示している数字ほど嫌いではないのかも知れない。われわれが授業の中で工夫を凝らし、読むこと、話すこと・聞くこととの乗り入れをうまく行えば、今までよりもずっと楽しい国語の書く時間が訪れることになるだろう。